

YANA4 誕生秘話

紹介した肺癌の鑑別を目的とした免疫多重染色“YANA4”は、私が考案したものである。論文を投稿するにあたり、この重染色のネーミングについて、“肺 Lung、腺癌と扁平上皮癌 Adenocarcinoma, SCC で……LAC?”, “TTF-1 と Napsin A, p63, CK14 だから……TNPC?”と、重染色の内容を全て網羅できるよう考えを巡らせたものの、ピンとこなかった。

“動物や昆虫や星は発見者の名前を付けるじゃないか!”ということで、“YANAGITA+4 種類の抗体”ということから“YANA4”と名付けたのである(実に短絡的)。とりあえず、考案者と抗体数が組み込まれた名前となったが、正直言ってしまえば、考案者の名前なんてどうでもいいことである。上司にも「う～ん、最近は人の名前を付けたものは、あまり認められないよ?」と言われたが、そのまま投稿! 査読者からは「What does “YANA” mean?」とのコメントが来た。何か意味があるのかと思うのが当然であろう。私が査読者でも同じ質問をすることだろう、と納得。上司からも「やっぱり名前変更したら? 肺癌とか腺癌とか扁平上皮癌とか免疫重染色とか、関係する単語の頭文字にしようよ」とのご意見をいただいた。正しい! 上司が正しい! でも、“諦めません、(雑誌に)載るまでは!!”

結局、“筆者の名前だ!”とだけ書いて査読者に戻した。すると……すんなりアクセプトされ、めでたく“YANA4”となったのである。